

令和2年度施政方針について

松野 久郎



〔質問〕こじゅうろうきッズランドの維持費を考慮した基金の創設が必要ではないか。

〔答弁〕〔市長〕費用負担の標準化や財政確保の迅速性などのメリットを考慮し検討する。

〔質問〕地域経済の発展や活力ある地域社会形成の取り組みと効果について所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕企業誘致による雇用創出、インバウンドを含む観光振興、農商工連携を核とした賑わい交流拠点の整備、まちづくり交付金制度を活用した地域づくりの推進に取り組むなど、交流拠点都市づくりを進展したものと考えている。

〔質問〕少子化の中、小原小中学校を小中一貫校として、どのようにしていく計画なのか。

〔答弁〕〔教育長〕令和2年度から小学校併設型中学校の制度により通称小原学園とし、少数によるきめ細やかな個別指導や地域と一体となった教育活動を実施していく。

〔質問〕働き世代から始める健康づくり推進事業の概要を伺う。

〔答弁〕〔健康推進課長〕市内企業に就労する20歳から60歳の働き世代をターゲットに、正しい生活習慣を身につけることができる健康教育や運動教室などを実施するもので、仙台大学に委託し実施する予定となっている。

〔質問〕新規事業である中国上海市への中学生派遣の概要を伺う。

〔答弁〕〔教育長〕昨年1月に白石中学校が上海市の華東師範大学第二附属中学と友好協定校の協定を結び交流していることから、さらに関係を深めるため、中学生派遣を行うものである。

〔質問〕空き家バンク事業に関する協定による効果を伺う。

〔答弁〕〔市長〕売買を希望する場合、仲介に入っていたことで、所有者と利用者双方の安心安全を確保できると考えている。

〔質問〕統廃合後の市民バスを利用する中学生について、バス時刻等に支障もあると聞いているが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕保護者や各中学校の意見を聞く機会を定期的に設け、意見や要望などの把握に努めていく。

〔その他の質問〕

◎新型コロナウイルス対策について

施政方針について

伊藤 勝美



〔質問〕市民主導による持続可能な地域づくりを推進し、目標の実現に向けて「勇往邁進」とのことだが、市民にとってどのように解釈すればいいのか。

〔答弁〕〔市長〕人口減少や少子高齢化などの課題に恐れず、市民と一緒になり越え、積極果敢にチャレンジしていきたいとの思いから、施政方針のテーマとした。

〔質問〕昨年10月の台風19号は本市に大きな被害をもたらしたが、被害を受けた道路・河川・橋梁・側溝・農地・用水路・ため池などの災害復旧の見通しについて伺う。

〔答弁〕〔建設課長〕現在、詳細な測量設計を行い、令和2年度の工事発注に向けて手続きを進めているが、復旧が難しい箇所も出てくると思われる。

現場の状況と施工時期を見極めながら、早期の復旧を目指していきたい。

〔質問〕本年1月の「公立刈田総合病院からのお知らせ」は「整形外科常勤医師2名が退職することから、4月以降は未定となり整形外科救急診療は対応できない」との内容だった。実際に整形外科診療が中止された場合、高齢者が増加している本市において、けがや事故などを考えると、その不安は大きくなるばかりである。また、他の

病院に行くための足が高齢者にはない。

この件で市内には動揺が広がっており、正に市民の安全安心に直結する憂慮すべき事態と考えるが、見解を伺う。

〔答弁〕〔市長〕東北大学や宮城県の関係機関などに要望を行い、全力で医師の確保に努め、市民の安全安心につなげていきたいと考えている。

〔質問〕市内外からの噂として「市長は刈田総合病院を民間に譲渡しようとしている」という話が聞こえてくる。

刈田総合病院を支える白石市長として、このような噂を払拭するためにも、現時点での考えを伺う。

〔答弁〕〔市長〕刈田総合病院を民間に譲渡したり、売却したり、委託したりといった考えは一切持ち合わせていない。